

令和2年8月17日

地球規模保健課題解決推進のための研究事業  
日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募に係る  
事後評価コメント

研究開発課題名 Discovery and molecular understanding of  
virulence-associated genetic markers of amebiasis  
研究開発機関名 国立感染症研究所  
研究開発代表者名 津久井 久美子

指摘事項

● 評価できる点

赤痢アメーバ原虫の病原関連性遺伝子 AIG1 を同定しており、その病態的意義について、コホートを利用して日本とバングラデシュの検体で解析している。AIG1 family protein の欠損が赤痢アメーバ症において無症候性となる要因であることが検証され、疾患病態の理解と新たな治療薬の開発に繋がる可能性がある。さらに、日米間の協働関係が適切に構築され、アジアの若手育成活動も効率よく実施されたことは評価できる。

● 疑問点、改善すべき点

AIG1 遺伝子の解析に留まらず、今後は遺伝子変異と機能との関連性や疾病対策にどのように発展していくのか検討することを期待する。また、バングラデシュ、インドネシアから臨床検体の収集と臨床株の樹立が上手くいかなかったため、今後は共同研究耐性の連携強化が望まれる。

以上